



加湿セラミックファンヒーター DKF-K121

取扱説明書

もくじ

保証書付



- 安全上のご注意…………… ①～③
- 知っておいていただきたいこと…… ④
- 各部の名称…………… ⑤～⑥
- 準備…………… ⑦
- 使いかた…………… ⑧～⑩
- 各機能…………… ⑪～⑫
- お手入れ…………… ⑬～⑯
- 保管…………… ⑰
- 故障かな?と思ったら…………… ⑱
- 仕様…………… ⑲
- よくあるご質問…………… ⑳
- 点検…………… ㉑
- アフターサービスについて…………… ㉒
- 保証書…………… 裏表紙

家庭用

- 業務用として使用しないでください。
- 他の用途でのご使用はしないでください。思わぬ事故の原因になります。

- ・このたびは弊社加湿セラミックファンヒーターをお買い上げいただきまして誠にありがとうございました。
- ・ご使用前に、この取扱説明書を必ずよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
- ・お読みになった後は、大切に保管してください。

安全上のご注意

必ずお守りください

- お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、安全に関する内容を記載しています。内容をよく理解して記載事項をお守りください。



警告

誤った取扱いをしたときに死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの



注意

誤った取扱いをしたときに傷害または物的損害のに結びつくもの

図記号の説明



禁止

禁止(してはいけないこと)を示します。具体的な内容は図記号の中や文章で示します。



指示

指示する行為の強制禁止(必ずすること)を示します。具体的な内容は図記号の中や文章で示します。



注意

注意を示します。具体的な内容は図記号の中や文章で示します。

警告



分解禁止

分解・修理・改造をしない

火災・感電の原因になります。修理はお買い上げの販売店にご相談ください。



水ぬれ禁止

本体を水につけたり、水をかけたりしない

ショート・感電の原因になります。



交流100V
15A以上

電源は交流100Vで定格15A以上のコンセントを単独で使う

交流100V以外で使ったり、コンセントを他器具と併用したり、延長コードを使うと火災・感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものをのせたり、挟み込んだり、加工したりしない

電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。



禁止

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差込みがゆるいときは使わない

感電・ショート・発火の原因になります。



濡れ手禁止

濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない

感電やけがの原因になります。



禁止

子供だけで使わせたり、幼児の手の届く所で使わない

感電やけが、やけどの原因になります。



禁止

吹出口やすき間からピンや針金など、異物を入れない

感電や異常動作して、けがの原因になります。

警告



不安定な場所に置かない

振動によって転倒すると水がこぼれ、ショートや感電の原因になります。



倒れて他の電気製品などに水がかかるような場所に置かない

こぼれた水で、ショート・感電・故障の原因になります。



お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜く

感電けがをすることがあります。



電源プラグは根元まで確実に差し込む

感電・ショート・発火の原因になります。



電源プラグの刃および刃の取付面にほこりが付いているときは乾いた布で拭き取る

火災の原因になります。



衣類などを掛けたり、吹出口、吸気口をふさがない

過熱や火災の原因になります。



スプレー缶や燃えやすいものの近くで使用しない

カーテンの近くや、机の下など周囲を囲まれた場所での使用もおやめください。
過熱や火災の原因になります。



乾燥など他の用途に使用しない

過熱して発火することがあります。



就寝中や外出中は使用しない

寝具などが触れたりして火災の原因になります。



排水やお手入れは本体が冷めてからおこなう

トレーの周囲や内部は熱くなっていますので、やけどの原因になります。
運転停止後30分以上経ってからおこなってください。



トレーに加湿フィルター・フィルターケース・フィルターおさえを取付ずに運転しない

加湿トレーや本体内部の温度が異常に高くなり、故障や発煙・発火の原因になります。



異常時(水漏れ、コゲくさい臭いなど)は運転を停止して電源プラグを抜く

異常のまま運転を続けると火災・感電の原因になります。運転を停止してお買い上げの販売店にご相談ください。

注意



電源プラグを抜くときはコードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く

プラグを持って抜く

断線やショートして感電・故障・発火の原因になります。



使用中や使用直後は高温部に触れたり、お手入れをしない

禁止

温風吹き出し口付近などに触れるとやけどの原因になります。



使用時以外は電源プラグをコンセントから抜く

プラグを抜く

けがややけど、絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。



浴室や屋外で使用しない

禁止

感電やショート・発火の原因になります。



加湿フィルターや吸気フィルターを外して使用しない

禁止

故障の原因になります。



ペットの暖房用に使用しない

禁止

ペットが本体やコードを傷め、火災の原因になります。



熱に弱い台や電気製品等の上に置かない

転倒して感電・ショートの原因になったり、本体底部の熱により、変色・変形の原因になります。



移動時は水タンクを取り外し、水平に持ち運ぶ

水が入っているときは、傾けたり揺らしたりすると、水がこぼれます。



水タンクにお湯(40℃以上)、化学薬品、汚れた水、アルカリイオン水、ミネラルウォーターなどを入れない

禁止

水道水以外は使用しないでください。故障や雑菌の繁殖の原因になります。



運転中に電源プラグを抜かない

禁止

本体の変形や、故障の原因になります。



タンクの水は毎日新しい水と入れ替える

本体内部は常に清潔に保ち、こまめに清掃してください。汚れや雑菌で悪臭の原因になったり、まれに体質により過敏に反応し健康によくありません。

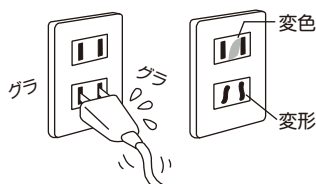
※この場合、医師に相談してください。

知っておいていただきたいこと

【安全・快適にお使いになるために】

- 吹出口や吸気口をふさがないでください。故障や変形の原因になります。
- お手入れは、こまめに行ってください。(P13～P16を参考にしてください。)特に内部に水あかなどがたまりますと、誤作動や異音・悪臭の原因になります。
- 本体下部や床(設置場所)を時々清掃してください。こぼれた水を放置すると、床を傷めるおそれがあります。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具など熱源の近くに置かないでください。水が膨張してあふれたり、変形・変色の原因になります。
- 毎日水を入れ替えてください。水が腐敗して悪臭の原因になります。
- 移動するときは、水タンクを取り出し、本体を傾けないように静かに運んでください。
- 本体内部のトレーに直接水を入れしないでください。水がこぼれて故障の原因になります。
- 水タンクのキャップは確実に締めてください。また、水タンクを本体に入れるときには、水漏れがないかを確認してください。水漏れがある場合は、使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。
- コンセントの差し込みが緩くなっていないか(コンセントの老朽化)、タコ足配線をしていないか、またプラグが根元まで差し込まれているかなどを確認してください。緩くなったコンセントは使用しないでください。電源プラグの刃が変形している場合や、コードにキズがある場合などは、使用を中止し、修理をご依頼してください。
- この製品の加湿機能は加熱・気化式であるため、加湿量は、お部屋の温度や湿度によって影響を受けます。

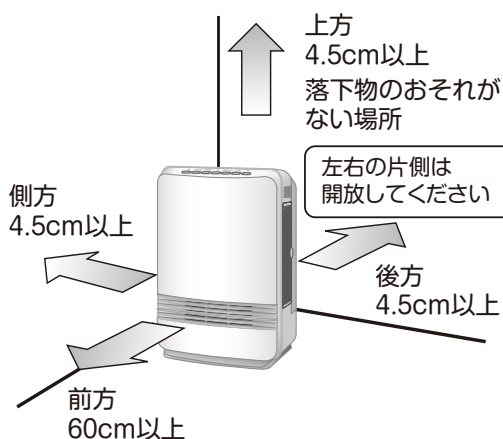
【コンセントの点検】 次のようなコンセントは、早めの交換をしてください。



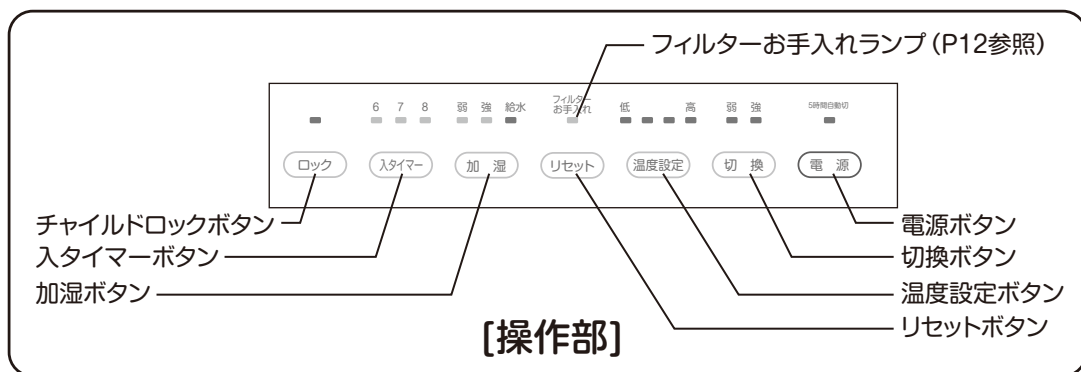
- 電源プラグが軽く差し込めたり、すぐに抜けてくる。
 - 変色していたり、変形している。
- ※良好なコンセントは、電源プラグを差し込むとき、多少力が必要で、差し込んだ後もぐらぐらしません。

【設置】

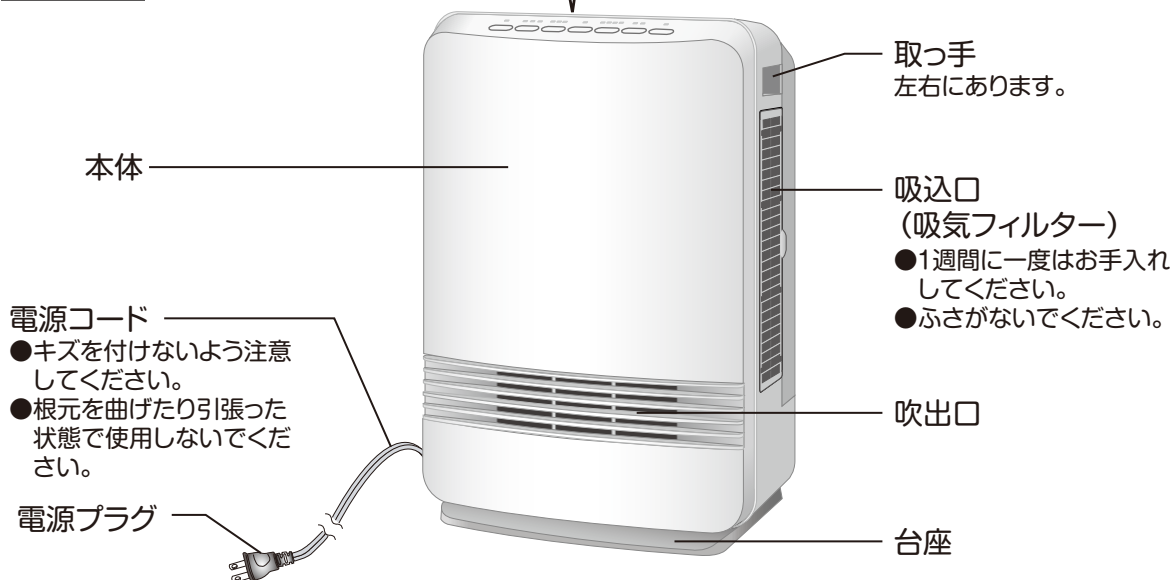
- 周囲から右図のように離して設置してください。
- 安定の良い場所に設置してください。
- 洗濯物の下やカーテン、布団、新聞など燃えやすいものの近くで使用しないでください。また、本体の上に物をのせないでください。
- 机の下など周囲を囲まれた場所や、他の熱源に近づけて使用しないでください。火災の原因になります。



各部の名称

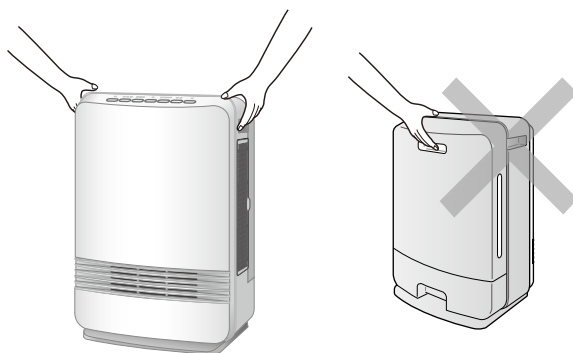


正面



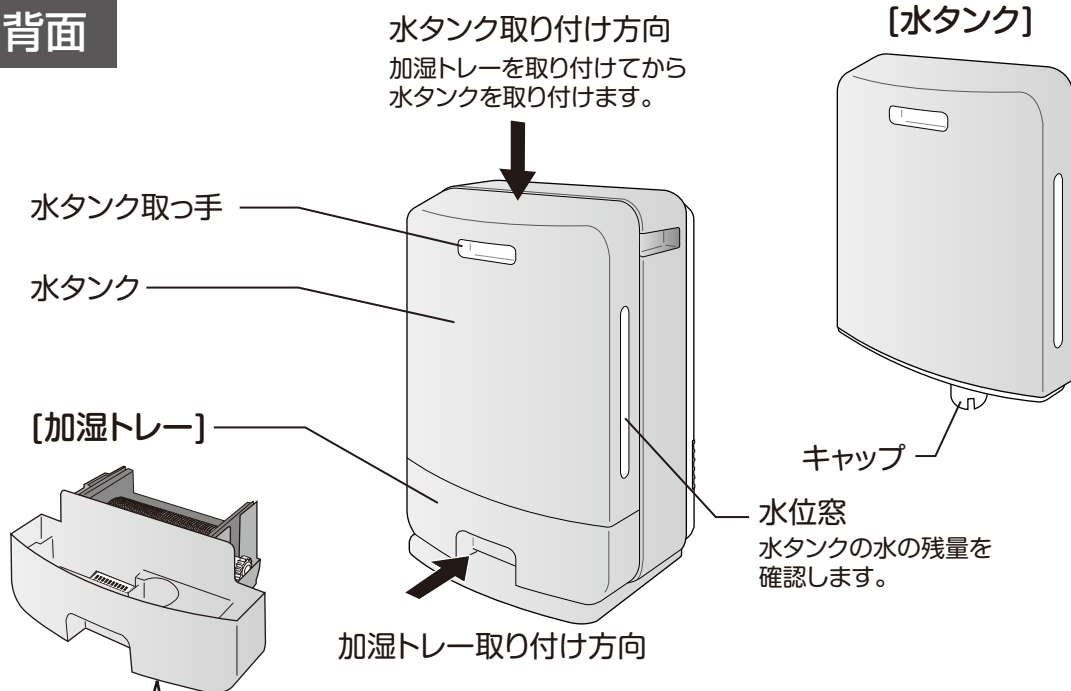
【本体の持ちかた】

- 移動するときには、図のように両側上部の取っ手を持ち慎重に運んでください。
- 水が入っているときは水タンクを取り外し、本体を傾けたり、揺らさないようにしてください。水がこぼれるおそれがあります。
- 水タンクの取っ手を持って移動しないでください。

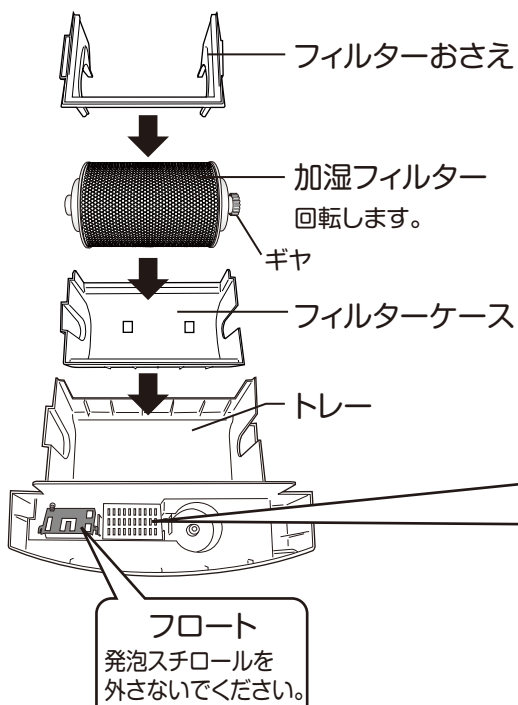


各部の名称

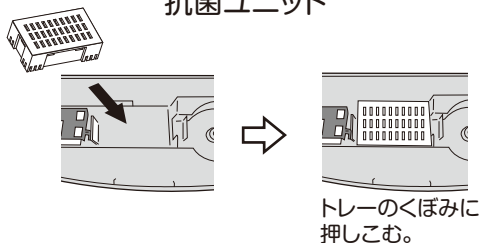
背面



※各部品はこまめにお手入れしてください。
(P13~16参照)



抗菌ユニット



[抗菌ユニットについて]

トレー内にたまった水の雑菌繁殖を抑える効果があります。

- 試験依頼先：財日本食品分析センター
- 試験方法：菌液に抗菌ペレットを添加した場合としない場合において24時間後に液中の生菌数を測定し比較する(2種類の菌で実施)。
- 抗菌方法：抗菌ユニットの中に入っている抗菌ペレットを水に接触させることによる。
- 対象：抗菌ユニットを配置したトレー内の水。
- 試験結果：24時間で99%以上抑制。
試験成績番号 第12070225001-01号

※抗菌ユニットに入っている抗菌ペレットがトレー内の水につかることで雑菌繁殖を抑える効果はありますが、完全に菌を死滅するものではありません。より清潔にご使用いただくために、水タンクやトレーの水は毎日入れ替えてください。

準備

—水タンクへの給水—

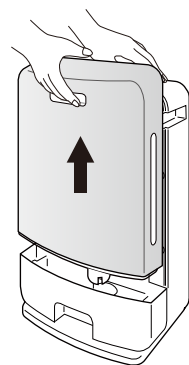
1 本体から水タンクを取り出す

本体を片手で押さえ、水タンクの取っ手を持って引き抜いてください。



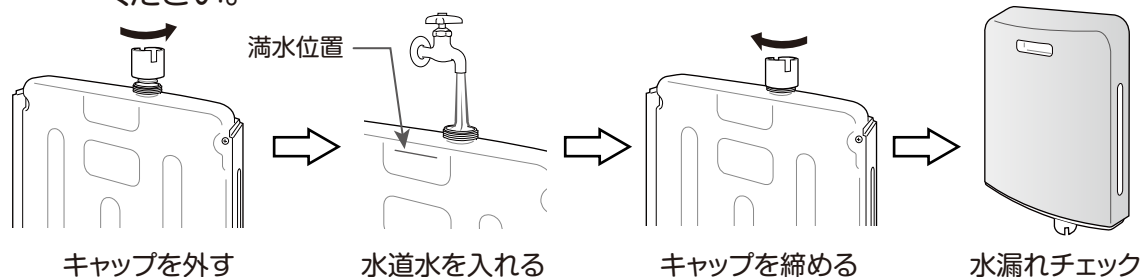
注意

トレーに水が残っているときは、ゆっくりと引きぬいてください。勢いよく取りだすと、水滴が垂れることがあります。



2 水タンクに水を入れる

- ①キャップを回して外し、水道水を入れてください。(満水ラインを超えない。)
- ②元どおりにキャップを締めて、キャップを下にして水が漏れないか確認してください。



注意

次のような水は使わないでください。

- ミネラルウォーター、アルカリイオン水、井戸水、浄水器の水
カビや雑菌が繁殖しやすくなり故障の原因になります。
- 40℃以上の温水や化学薬品、芳香剤、アロマオイル、汚れた水
変形や故障の原因になります。

3 水タンクをセットする

水タンク上部の凸部を本体の水タンク固定穴に差し込み、元通りセットします。

〔給水ランプが点灯したら〕

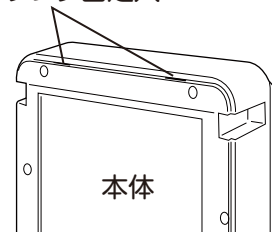
- 水がなくなると、「ピーツ」とブザーが鳴り、給水ランプが点灯します。
このとき、加湿運転は停止しますが、温風運転は継続します。
- 加湿運転を再開させたいときは、水タンクに水を入れてセットしてください。自動的に加湿運転が再開します。
このとき、給水ランプは消灯して、加湿「強」で運転開始します。

水タンク凸部



水タンク

水タンク固定穴



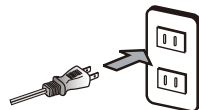
本体

使いかた — 温風連続運転 —

1 電源プラグをコンセントに差し込む

“ピッ”という音がして、電源ランプが赤く点灯します。

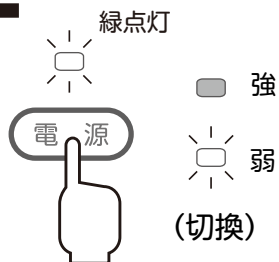
- 定格15A以上のコンセントを単独で使用して、延長コードは使用しないでください。



⚠ 注意

電源コードを束ねたまま使用しないでください。また、使わないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。発熱・発火の原因となります。

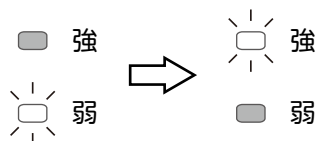
2 運転を始める



- 電源ボタンを押すと“ピッ”という音がして、電源ランプが緑の点灯に変わります。温風運転が始まり切換のランプが点灯します。
- 何も操作をしないと、オートオフ機能によって5時間後に運転を停止します。(P12参照)

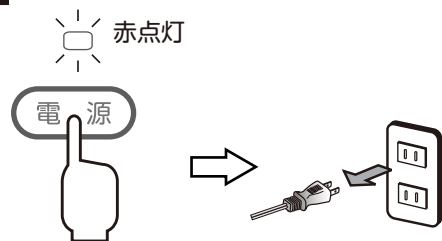
3 温風を切り換える

切換ボタンを押すと温風の強弱が切り換わります。



※ 押すたびに強弱を繰り返します。

4 運転を終了する



電源ボタンを押すと“ピッ”という音がして、電源ランプが赤の点灯に変わり、約30秒間送風して運転が停止します。

ご確認後、電源プラグをコンセントから抜いてください。

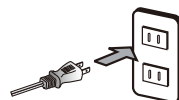
使いかた — 温風・加湿連続運転 —

1 水タンクに水を入れる (P7参照)

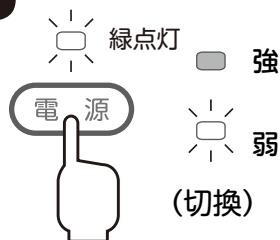
水タンクに水道水を入れて本体にセットしてください。

フロートの発泡スチロールは絶対に外さないでください。フロートが動作しなくなるため、給水ランプが点灯して、加湿できなくなります。

2 電源プラグをコンセントに差し込む (P8参照)



3 運転を始める

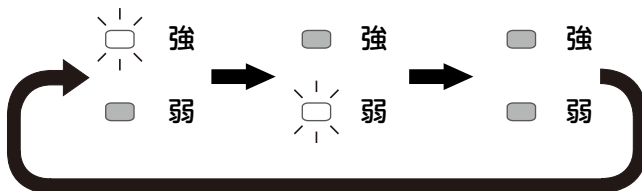


- 電源ボタンを押してください。温風運転を開始します。
※この状態では加湿運転ではありませんが、トレーに水が入っている場合、熱気で水が気化しますので、若干加湿します。
- 何も操作をしないと、オートオフ機能によって5時間後に運転を停止します。(P12参照)

4 加湿する



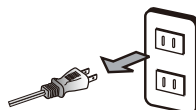
加湿ボタンを押すと加湿運転を始めます。
ボタンを押すごとに「強」→「弱」→「停止」と切り替わります。



- 運転中に水がなくなると“ピーッ”とブザーが鳴り、給水ランプが点灯して、温風だけの運転に切り換わります。
- 水タンクに水を入れてセットすると温風・加湿運転を再開します。
- 加湿トレーは確実にセットしてください。確実にセットしないと安全装置が働き運転しません。

5 温風を切り換える (P8参照)

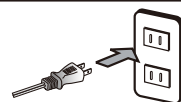
6 運転を終了する (P8参照)



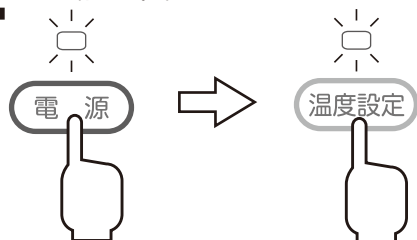
使いかた -自動運転-

温度センサーが設定した温度を自動的に保つよう運転します。

1 電源プラグをコンセントに差し込む (P8参照)

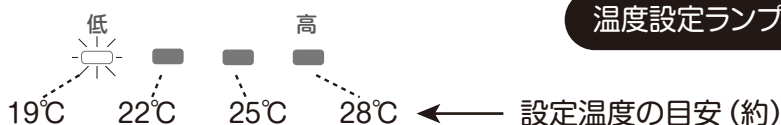


2 自動運転をする



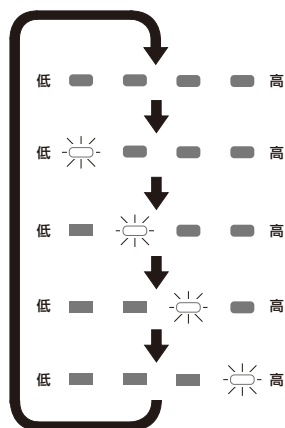
- 電源ボタンを押してから温度設定ボタンを押して、お好みの温度に設定します。
- 何も操作をしないと、オートオフ機能によって5時間後に運転を停止します。(P12参照)

[設定温度の切換え]



温度設定ボタンを押すたびに、1段階ずつ高くなっていきます。

「高」のとき、ボタンを押すとランプが全て消灯して温度設定を解除し、温度に関係なく連続運転します。



〔自動運転時の動作〕 自動運転時には次の動作を繰り返します。

- 設定した室温になるとヒーターの通電を停止し、電源ランプが点滅に変わります。(30秒送風して運転を停止します。)
 - 室温が下がると、再び運転を始め、電源ランプは点灯に変わります。
- ※設定温度に達しないときは、連続で温風運転をします。

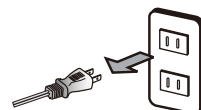
- 機器の設置条件などにより、設定した温度は、室温と異なることがあります。目安としてご使用ください。
- 温度設定をすると、設定より室温が高いときは運転を停止します。運転させたいときは、設定温度を高くしてください。
- 室温が28℃以上のときは運転を停止します。

3 加湿する (P9参照)

設定した室温になると温風と連動して加湿運転も停止します。

4 温風を切り換える (P8参照)

5 運転を終了する (P8参照)



各機能

入りタイマー



点滅→点灯



設定が6時間のとき

緑色点灯→赤色点滅

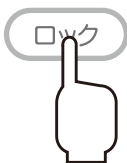


電源

- 運転状態で、お好みの設定をし運転を始めてから、タイマーボタンを押してください。ランプが点滅中に再度押すと設定時間が変わります。(6・7・8時間) 約3秒間点滅後ランプが点灯に変わり、電源ランプが緑色点灯から赤色点滅になり、設定が完了します。
※設定完了後、約30秒間送風してから停止します。
- 設定した時間が経過すると、運転が始まります。
※センサー運転時には、タイマー設定ができません。

- タイマー設定後でも時間を変更できます。(繰り返し押して、ランプが消灯したときは設定解除されます)
- 設定を変更した場合には、その時点から時間をカウントします。
- 設定後に電源ボタンを押すと設定が解除され運転が始まります。
- 時間経過とともに点灯ランプが変わります。
(例) 8時間設定で1時間経過すると「7」のランプが点灯し、さらに1時間経過すると「6」のランプが点灯し、その後は運転が始まるまで「6」のランプが点灯します。

チャイルドロック



- ロックボタンを3秒間長押しします。
ロックランプが点灯します。
停止状態でロック→運転開始できなくなります。
運転状態でロック→運転設定を変更できなくなり、電源を切る以外の操作ができなくなります。

解除 解除するときは、再びボタンを3秒間長押ししてください。

※ロック中に転倒して転倒オフスイッチが動作すると電源は切れますが、ロックは解除されません。再度運転するときは、本体を正常に起こしてロックを解除してから再度電源ボタンを押してください。

各機能

オートオフ機能

- 運転開始後、何も操作をしないと5時間で運転を停止する機能です。運転中に出力切換したり何か操作をすると、その時点から5時間後に運転停止します。停止すると電源ランプが赤色に点灯します。
- 続けて運転したいときは、再度電源ボタンを押してください。
- センサー運転時には、オートオフ機能が働きません。

フィルターお手入れランプ

- 一定の時間、加湿運転をするとフィルターお手入れランプが点滅し、お手入れが必要なことをお知らせします。

※加湿フィルターの汚れを検知するものではないため、汚れ具合は使用条件などで異なります。



- P13～P16「お手入れ」を参考にお手入れをしてください。

※お手入れをおこたったり、お手入れが不十分な場合は、加湿フィルターに水の有機分がこびりつき、故障や異臭の原因になります。



- お手入れが終わったら、リセットボタンを3秒間長押ししてください。ランプが消灯して初期の状態に戻ります。

加湿フィルターの
お手入れ終了



リセット



3秒間長押し



フィルター
お手入れ



お手入れ



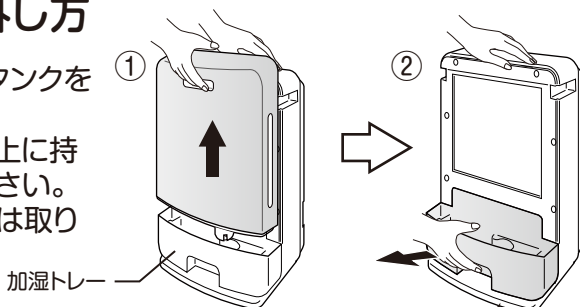
お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷めてから行ってください。

お手入れは、必ず定期的に行ってください。とくに加湿フィルターは、機器の性能にかかわりますので、早めにお手入れをしてください。

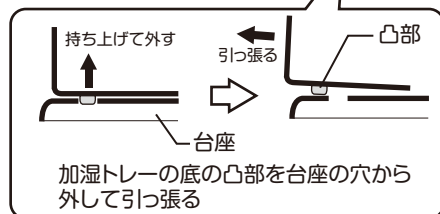
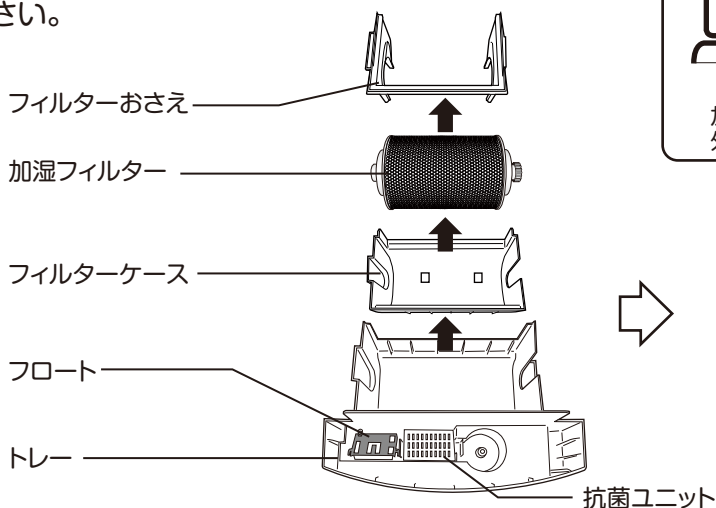
※フィルターお手入れ警告ランプが点灯した場合は、ただちにお手入れをしてください。

1 水タンク・加湿トレーの取り外し方

- ① 本体を充分冷まして(30分以上)から水タンクを取り出します。
- ② 次に片手で本体を押さえ、加湿トレーを上を持ち上げるようにして引っ張り出してください。
※水タンクを取り出さないと加湿トレーは取り出せません。



- フィルターおさえ・加湿フィルター・フィルターケースを取り出して、トレーの水を捨ててください。



2 水タンクのお手入れをする(毎日)

- 水で洗う

・使用期間中はタンク内部を常に清潔にし、毎日新しい水道水と入れ替えてください。
・水あかが取れにくいときは、給水タンクに台所用中性洗剤を溶かしたぬるま湯を入れてふるって洗い、その後よくすすいでください。

3 本体のお手入れをする(1週間に1回程度)

- 乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。
汚れがひどい場合はぬるま湯でうすめた台所用中性洗剤を布に含ませ固くしぼってふいてください。

・シンナー・ベンジンなどの揮発性の溶剤は使用しないでください。変形・変色の原因になります。

お手入れ

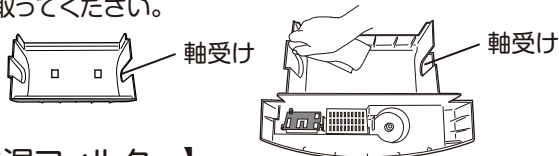


お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷めてから行ってください。

4 トレー・加湿フィルター・抗菌ユニットのお手入れをする (1週間に1回程度)

【フィルターケース・トレー】

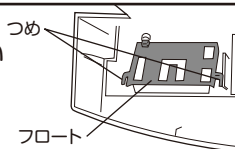
- 乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。
- ◆汚れがひどい場合は、ぬるま湯でうすめた台所用中性洗剤を布に含ませ固くしぼってふいてください。
- ◆加湿フィルターの軸を受ける部分に水アカが付着すると、動作不良など故障の原因になりますので、必ず拭き取ってください。



【フロート】

※外さないでください

- フロートがはずれたときはフロートの両側のつめをトレーの凸部にはめてください。
- 水あかなどが多く溜まると可動部が固着して動かなくなることがありますので定期的に手で動かして点検してください。
- 発泡スチロールを外さないでください。フロートが動作しなくなるため、加湿できなくなります。



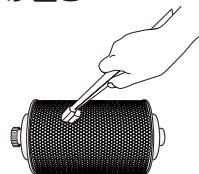
【加湿フィルター】

- 水の中に含まれるカルシウムなどのミネラル分(水あか)が加湿フィルターに付着しますので、次のようにお手入れをしてください。

1. 台所用中性洗剤を入れたぬるま湯に入れてつけ置きしてください。(約1時間)
2. 新しい水ですすぎ洗いをしてください。



- 汚れが落ちにくいときは、表面を歯ブラシなどで擦り洗いしてください。



トレー・加湿フィルターの水あかが取れにくいとき、また1ヶ月に1回はP16の「クエン酸の使い方」を参考にお手入れしてください。

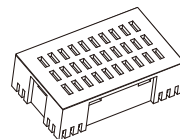
※水質によって水あかが付きやすい場合がありますので、早めのお手入れをおすすめします。

・シンナー・ベンジンなどの揮発性の溶剤は使用しないでください。

【抗菌ユニット】

ケースの中に抗菌ペレットが入っています。ケースの目がつまってきたら、スポンジやブラシ等で取り除いてください。

- 抗菌ユニットはご使用に伴い効果が低下します。1シーズンごとの交換をおすすめします。(お買い上げの販売店でお求めください)



※お手入れ後は、水分をきれいにふき取って、各部品が正しく取り付けられていることを確認してからご使用ください。



- 加湿フィルター・フィルターおさえ・フィルターケースは必ず取り付けてご使用ください。故障の原因になります。
- 加湿フィルターを熱湯で洗ったり、直火にあてて乾かさないうでください。変形、変質の原因になります。

お手入れ

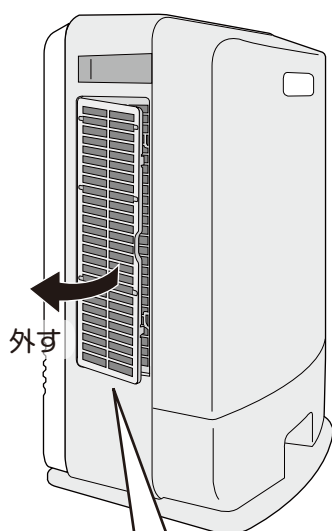


お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷めてから行ってください。

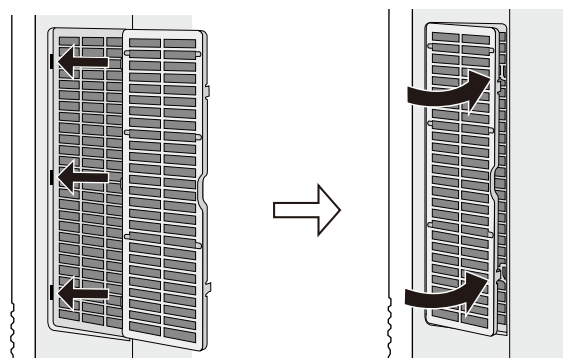
5 吸気フィルターのお手入れをする(1週間に1回程度)

- 吸気フィルターがホコリなどで目詰まりすると暖房性能が低下したり、故障の原因になります。定期的にお手入れをしてください。
- ホコリは、掃除機で吸い取ってください。水洗いはしないでください。目詰まりし、フィルターの機能が低下することがあります。
- 汚れがひどい場合は、フィルターを取り外してホコリを取り除いてください。

〔外しかた〕



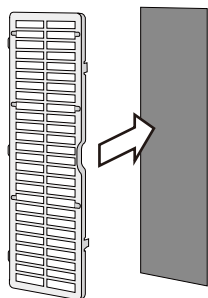
〔取り付けかた〕



①フィルターを枠にセットして、枠の凸部を本体の穴に差し込む

②枠のツメを差込みセットする

掃除機で詰まったゴミやほこりを吸い取る



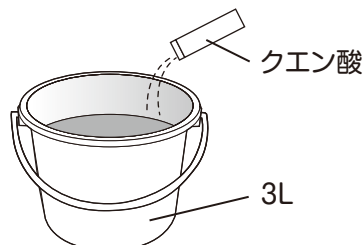
- 吸気フィルターなしで絶対に使用しないでください。故障の原因になります。
- 吸気フィルターを熱湯で洗ったり、直火にあてて乾かさしないでください。変形、変質の原因になります。

お手入れ・保管のしかた

6 クエン酸の使い方 (水あかが取れにくいとき)

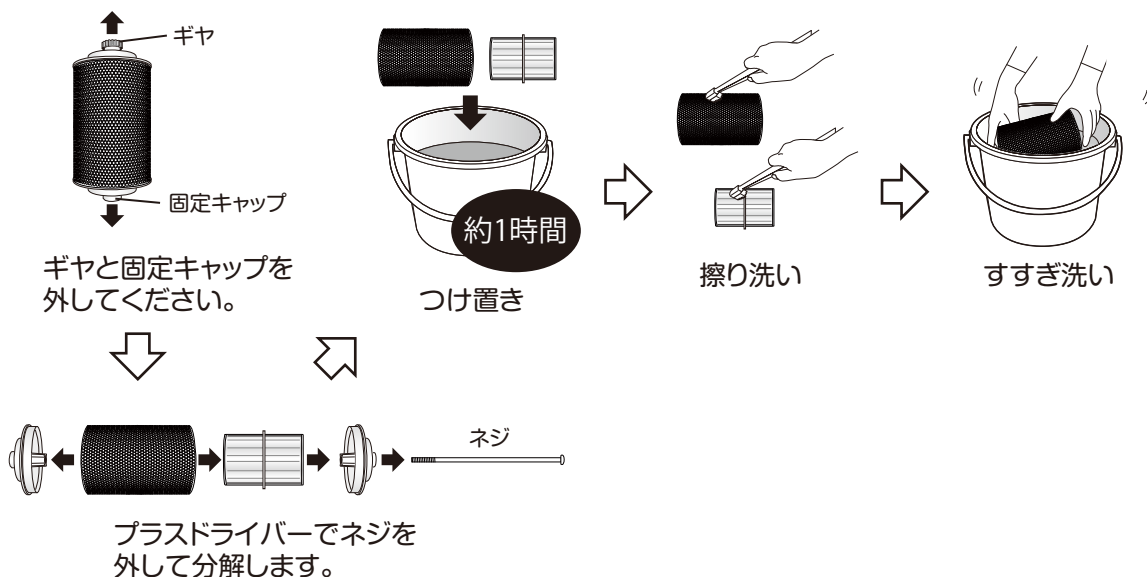
クエン酸 約20g (大さじすりきり2杯程度)

・クエン酸は薬局・薬店でお求めになれます。

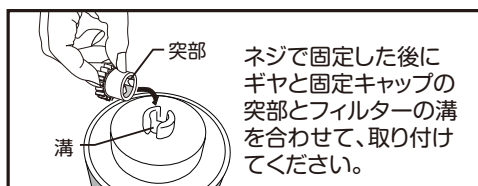
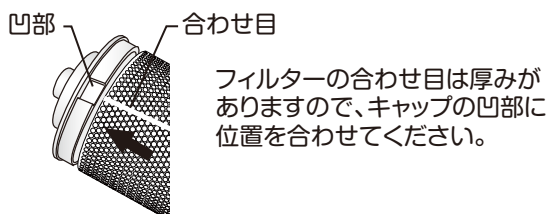


- ①水またはぬるま湯 (40℃以下) に入れてよく溶かしてください。
- ②加湿フィルターや水タンクをつけ置きしてください。(約1時間)
- ③歯ブラシなどで表面と内側を擦り洗いしてください。
- ④新しい水で十分にすすぎ洗いをしてください。すすぎが不十分だとにおいや故障の原因になります。

【加湿フィルター】 次のように1ヶ月に1回は、分解してお手入れをしてください。



●洗った後は、十分乾燥させてから元どおりに組立ててください。

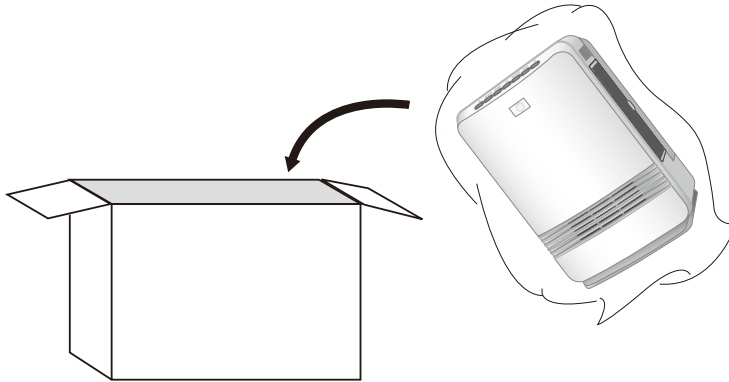


- ・濃度が高すぎると部品破損の原因になりますので、ご注意ください。
- ・クエン酸は成分が残ると、においの発生や故障の原因になります。
- ・水質により汚れ具合が変わるため、1カ月以内でも、においがしたりタンクの水が減りにくい場合は、お手入れしてください。

保管

保管のしかた

- お手入れのあと、本体や水タンクの水を拭き取り直射日光の当たらないところで十分に乾燥させてください。
- 箱に入れるか、ポリ袋をかぶせ、湿気の少ない直射日光の当たらないところに保管してください。



※緩衝材をなくしてしまった場合や、箱に入れなくて収納するときは製品を立ててポリ袋などを被せ、収納してください。



注意

電源コードをきつく束ねたり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

- コードが破損し、火災や故障の原因になります。

故障かな?と思ったら

修理を依頼される前に、次の点をお調べください。

症 状	原因と対策
運転しない	<ul style="list-style-type: none">●電源プラグがコンセントから外れていませんか。 →しっかりと差し込んでください。●加湿トレーが確実にセットされていますか。 →確実にセットしないと安全装置が働き運転しません。 確実にセットして電源プラグをコンセントに差し込み、電源ランプが点灯することをご確認ください。
加湿量が少ない	<ul style="list-style-type: none">●加湿フィルターがセットされていますか。 →確実に加湿フィルターをセットしてください。●部屋が「加湿の目安」の床面積より広くありませんか。●この製品はお部屋の温度、湿度によって加湿量が変わります。●加湿フィルターに水あか等が多く付着していませんか。 →加湿フィルターをお手入れしてください。
においがする	<ul style="list-style-type: none">●水が古くなっていませんか。 →新しい水に交換して、加湿フィルターをお手入れしてください。●加湿フィルターやトレーが汚れていませんか。 →加湿フィルター・トレーをお手入れしてください。●使い始めは少しにおいがすることがありますが、ご使用にともないにおいがなくなります。
異音がる	<ul style="list-style-type: none">●加湿トレーが確実に奥まで挿入されていないと、加湿フィルターの駆動ギアがすべり、異音が発生します。 →加湿トレーを完全に奥のとまるところまで差し込んでください。●加湿フィルターやトレーの加湿フィルター軸を受けるところに水あかが付着していませんか。 →P13～P16を参考にお手入れしてください。
風量が少なくなつた	<ul style="list-style-type: none">●吸気フィルターがホコリで目詰まりしていませんか。 →吸気フィルターをお手入れしてください。
水タンクからボコボコと音がする	<ul style="list-style-type: none">●水タンクに水が入っている場合は、トレーに水を供給する際、空気を吸い込む音で異常ではありません。
ブザーがピーピーと鳴りっぱなし	<ul style="list-style-type: none">●本体に布などが被っていたり、周囲が囲まれた場所で使っていませんか。 センサーが異常温度を感知しています。 →上記の原因を取り除き、電源プラグを差しこみなおしてください。●ファンが故障したりして、本体が異常に高温になっています。すぐに電源プラグを抜き、使用をやめて修理をご依頼ください。

※上記の点検または処置をしても異常がなおらなかったり、原因がわからないときは、電源プラグをコンセントから抜き、トレーや水タンクの水を捨て乾燥させてから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

仕様

定 格	交流100V 50/60Hz 1200/1100W			
本 体 寸 法	幅295×奥行220×高さ430mm			
質 量	約5.4kg			
電源コード長	1.8m	水タンク容量		約3.9L
加 湿 量 室温20℃ 湿度30%	温風「強」 加湿「強」	温風「強」 加湿「弱」	温風「弱」 加湿「強」	温風「弱」 加湿「弱」
	500ml/h	160ml/h	160ml/h	100ml/h
安 全 装 置	転倒オフスイッチ、サーモスタット、温度ヒューズ、 電流ヒューズ			

※加湿量は周囲の環境(室温・湿度)によって異なります。
温風運転のみ(加湿運転していない場合)でもトレイに水が入っているときは、若干量加湿します。
加湿したくないときは、水トレイの水を捨ててください。

よくあるご質問

ご質問	回答
何畳の部屋まで暖まりますか？	最大約8畳までが目安です。 ※コンクリート住宅・断熱材ありの場合
電気代はどのくらいかかりますか？	「強」運転時 1時間あたり約32円/30円 (50/60Hz) 「弱」運転時 1時間あたり約16円/15円 (50/60Hz) ※電気料金目安単価27円/kWhを基に計算しています。
一日中連続で使用できますか？	連続で使用いただいてもかまいません。 ただし、5時間自動オフ機能によって、5時間ごとにスイッチを入れ直す必要があります。また、使用しない時は必ず電源を切ってプラグをコンセントから抜いてください。
湯気(蒸気)が出ませんが加湿していますか？	この製品は、水を沸騰させない加熱気化式のため湯気(蒸気)は見えません。
温風のみで運転できますか？	加湿ボタンを押さない場合は温風だけの運転になります。 ただし、トレイに水が入っている場合、若干加湿します。
加湿のみで運転できますか？	この製品は、温風を利用して加湿するため加湿単独運転は、できません。
転倒オフスイッチはどこについていますか？	転倒オフスイッチは本体に内蔵されていますので、外観では見えません。また、持ち上げても電源は切れません。傾けると電源は切れます。
送風ローバーに白いものが付いてしまった	ご使用にともない水道水のミネラル分が付着したもので、異常ではありません。溜まってくると床に飛び散ることがありますので、ふき取ってご使用ください。

点検

電源コード、電源プラグはときどき点検を行い、次のような症状を見つけたらお買い上げの販売店または、弊社お客様ご相談窓口にご相談ください。

- 電源プラグに焦げ跡がある。
トラッキング現象が始まっている可能性があり、危険な状態です。
- 電源プラグの刃が変形している。
- 電源コードを曲げると、電源が切れたり入ったりする。
- 電源コードの被覆に傷、亀裂、へこみがある。
- 電源コードの一部が熱くなる。

次のような取り扱いは感電や発火の原因となり危険です。

- 電源コンセント、電源プラグにほこりやごみがたまっている。
→電源スイッチを切ってから電源プラグを抜き、ほこりやごみを乾いた布で取り除いてください。
- 電源コードにストレス(引っ張りや急激な曲げ)を与えている。
→電源コードにストレスが、かからないように引き回してください。
- 電源コードを引っ張って電源プラグを抜く。
→電源プラグを抜く時は、必ず電源プラグを持って抜いてください。
- 濡れた手のまま電源プラグの抜き差しをする。
→タオルなどで手の水分を拭き取り手が乾いてから電源プラグの抜き差しをしてください。
- 電源プラグが緩んでいる。
→電源プラグを奥までしっかりと差し込んでください。
- 電源コードが束ねられている。
→熱がこもって、たいへん危険です。電源コードは必ず伸ばして使用してください。
- 電源コードが通路にはみ出している。
→足を引っ掛けたり、踏まれたりしないように電源コードを引き回してください。
- 電源コードが暖房器具の前にある。
→熱放射を受ける場所は避けて電源コードを引き回してください。
- 製品またはコンセントが水のかかる場所にある。
→電気は水が大敵です。水のかかる場所では電気関連製品を使用しないでください。
- タコ足配線をしている。
→テーブルタップの定格容量をオーバーしている可能性があります。
タコ足配線は行わないでください。

【定期点検のお願い】

長期間（5年程度）経過したものは、ご使用上支障がなくても安全のために、ご使用前に販売店に点検をご依頼ください。部品が磨耗したり傷んでいると、通電しなかったり、異常発熱することがあります

アフターサービスについて

製品の保証について

- この説明書には製品の保証書がついています。

保証書は、お買上げの販売店で「お買上げ日」「販売店名」などの記入を受け、ご確認のうえ内容をよくお読みいただき大切に保管してください。

- 保証期間はお買上げ日より1年間です。

保証書の記載内容により修理をいたしますが、保証期間中でも有料となる場合があります。

- 保証期間後の修理

お買上げ販売店にご相談ください。修理によって使用できる場合は、ご要望により有料修理いたします。

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」に沿ってご確認していただき、それでも異常のあるときは、ただちにご使用を中止し、お買上げ販売店に修理をお申しつけください。ご自分での分解・修理は絶対にしないでください。感電やけがの恐れがあります。

補修用性能部品について

この製品の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切り後6年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

この商品についてのお取扱い・お手入れ方法などのご相談、ご転居されたりご贈答品などで、販売店に修理のご相談ができない場合は、「お客様ご相談窓口」にご相談ください。

お客様ご相談窓口

ダイヤル  0570-019-700

※PHS、IP電話など一部の電話からのご利用はできません。
受付時間 10:00～17:00 (土・日・祝日を除く)

- Eメールでのご相談も受け付けております。その際は商品名・品番・ご相談内容・お名前・お電話番号をご記入の上、ご相談ください。

Eメールでのご相談は
info_a@yamazen.co.jp

個人情報のお取り扱いについて

株式会社 山善及びその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容をご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者には提供しません。

※お問い合わせの際には商品名・品番をご連絡ください。